

来週の『売り物』記事はこれ



2015年11月13日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

過ちの人生 中国残留孤児2世の悔い

15日(日)



「先生の言う通りには生きられませんでした」。ピッキングによる事務所荒らしで13年の刑期を終え、岐阜刑務所を出た男性(43)は中学時代の恩師(62)に頭を下げました。1980年代、東京・江戸川区の中学校に通っていた中国残留孤児2世たち。日本語が分からず、Yシャツも買えないほど貧しかった彼らは、日本人生徒による差別やいじめに抵抗しようと12人のグループを作りました。後に準暴力団に認定される「チェーンズドラゴン」の原型です。彼らは同じ2世がいじめられたという情報があれば仕返しに行き、英雄視されました。さらに皮肉なことに、けんかを通じて知り合った日本人がグループに加わり始め、仲間は仲間を呼んで膨張していきます。男性は「当時は仲間ができることが嬉しかった」と言います。元メンバーの男性と、彼らに真っ当な人生を歩ませようとした恩師の姿を通して、孤児2世のグループがなぜ犯罪集団に転落したのかを考えます。



日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待下さい。

今なぜか、犬より猫が人気

あなたは犬派？猫派？

夕刊2面特集ワイド 17日(火)



昔からよくある問いかけの一つに、「あなたは犬派か、猫派か」がありますが、最近は猫派が優勢になりつつあるようです。一般社団法人・ペットフード協会の調査によれば、犬の飼育数が減少傾向にある一方、猫の飼育数は増加しており、今年中には飼い猫が飼い犬を追い越す可能性があるのです。インターネット上では猫の写真や動画が人気で、写真集も犬より猫がよく売れています。なぜ今、猫なのでしょう。犬好きと猫好き、そして専門家とともに考えます。

「米團治の粋な噺で行きましょう」 おんなのしんぶん 16日(月)

2カ月に一度連載中の落語家・桂米團治さんがホスト役を務める対談コーナー。今回のゲストは、漫画家の美内すずえさん=写真=です。米團治さんの父、故桂米朝さんの大ファンだったという美内さん。代表的な作品である「ガラスの仮面」誕生の秘話や、故郷・大阪への思いなどを語り合いました。



「無理せず寄付」広がる裾野

くらしナビ面 19日(木)



欧米に比べて人々の関心の低い寄付活動を日本でも根付かせようと、12月に官民共同で初の「寄付月間」が始まります。2011年の東日本大震災で多額の寄付が行われた=写真=後、全体として一段落した感がありますが、ITを活用した寄付など新しい動きは広がっています。手軽に、気軽に、楽しみながら社会貢献できるさまざまな寄付のあり方を紹介します。

食・温かい汁物

くらしナビ面 17日(火)

秋が深まるにつれ、朝晩の冷え込みが体にしみみます。そんな時、旬のキノコや根菜が入った温かい汁物が恋しくなります。「温かい汁物は、胃にしみわたる感じが心地よいです」と語る料理研究家の河合真理さんに、この季節に合った「秋の沢煮椀(さわにわん)」「キノコの八杯汁」「ニンジンとミカンのお米ポタージュ」のレシピを提案していただきました。



モラル溶解 偽装マンションの衝撃度！

オピニオン面 [論点] 20日(金)



横浜市のマンション傾斜騒動は混迷の度合いを深めています。だんまりを決め込んでいた元請けの三井住友建設がようやく会見で謝罪したかと思えば、くい打ちを担った2次下請けの旭化成建材に責任があるとの認識をにじませました。でも、本当にくい打ちだけが原因なのでしょうか。騒ぎが全国に広がろうとしているなか、識者の話を通して問題の本質に迫ります。

時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。

溝口健二監督の世界

朝刊文化面 21日(土)

長部日出雄さんの「映画と私の昭和」は、1950年代に伊ベネチア国際映画祭を席卷した巨匠・溝口健二監督です。「西鶴一代女」「雨月物語」「山椒大夫」の3作品が3年連続で監督賞などを受賞し、フランソワ・トリュフォー監督ら欧州映画人から「神格化」されるほどの名声を得ました。リアリズムと夢幻能の世界が表裏一体で融合した作風の秘密に迫ります。



小学生新聞

小学生新聞 来週の
“売り物”、記事はこれ！



収穫の秋。16日からは子どもむけ農業雑誌「のらのら」とのコラボレーション紙面をお送りします。16日(月)は麦について、麦のまき方、収穫の仕方、17日(火)は小麦、大麦、ライ麦、はと麦などの種類のちがい、麦を使ったクッキーレシピを紹介。18日(水)は麦の働きや、麦わら細工の紹介をします。19日(木)の図解では自動運転車を徹底解剖、20日(金)は土着菌の働きについて学びます。21日は編集長コラムの予定です。